

私の専門は視覚障害リハビリテーションですから、高知での普及活動を始めたとき、私の関心事は中途視覚障害者のリハビリテーションでした。それに、視覚障害で手帳を取得している一八歳以下の児童数は、確か二七人ぐらいで、専門機関としての盲学校もあるのですが、児童の問題は気にしなくてよいと思っていました。

ある日、地域で講演をして、その後相談会をしたとき、五歳のお子さんを連れて保育園の先生が相談に来られました。

「この子、外へ出るのをとてもいやがるんです。散歩なんかに行くとはばかり向いていて、ちつとも周りを
見ようとしないんです。普通に眼は見えてるようですが」という内容でした。眼の病気について何うと、「先天性無虹彩」とのことでした。

皆さんご承知のとおり

インターチェンジ

交差点

り、虹彩とはカメラの絞りの役割を果たすもので、沢山光が入ってくると小さくなって光を遮りますが、「無虹彩」なので、その遮るものがないわけです。だから、お日様の下に出たら、まぶしくてたまらない。たぶん本人には、周りが光って、何も見えない状態になっているでしょう。

う」とか「明るいところに寝かすと、一日中眼を閉じているんです」という相談をたくさん受けました。

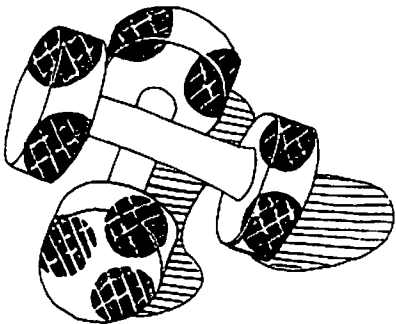
知られていない まぶしさのつらさ

見えにくい人がいたら、「まず周りをなるべく明るくすること」「見せたいものはできるだけ拡大してあげること」が良い対処法だと一般には思われていますが、前号で「視野狭窄」の方は、見える範囲が狭いので、拡大すると視野の中に入りきれないのでだめだと書きました。

また下の表のように、眼疾患をもっている人のほとんどが「まぶしさ」を感じており、そのことによって日常生活上大変つらい思いをしているのです。

吉野由美子

よしのゆみこ
視覚障害リハビリテーション協会長



施設から

「自分はまぶしくて困っている」という自覚をもっていないことが多く、「明るいほうが見えるだろう」という頑固な一般常識があります。見えにくい人の見え方は、百人百通り。一人ひとりに合ったケアをすることがとても大切なのです。

一般的な眼疾患と機能障害一覧

	まぶしさ	視野狭窄	暗点	夜盲	隅庇障害	屈折異常	眼振	視力変動	実行認知異常
全色盲	○			○	○				
白子	○				○	○			
無虹彩	○				○				
無水晶体	○					○			○
白内障	○				○			○	
ぶどう膜炎	○	○							
ペーチェット	○								
糖尿病	○	○	○		○			○	○
緑内障	○	○		○	○			○	○
半盲			○						
強度近視	○	○						○	○
円錐角膜	○					○		○	○
黄斑変性	○		○						○
視神経萎縮	○	○	○					○	○
網膜はく離	○	○	○					○	○
未熟児網膜症	○	○	○					○	○
網膜色素変性症	○	○		○	○			○	○